

地位の真理

はじめに

福岡集会では、フルクテンバウム博士の「メシア的バイブル・スタディ」シリーズの中から、「天使」に関係するものを選んで学びました。

この学びの目的は、霊の世界について正確に理解して、私たち信者が神の御手の中に守られていることを確信すること、そして日々の問題に対処できるようになることでした。

内容は、大きく三つ、第一に「聖なる天使たち」(2月)、第二に墮天使の長である「サタン」(3月)、そして第三、サタンに従って墮落した天使たち、すなわち「悪霊」(4月と5月)でした。

この学びの結論部分において、「信者は、サタンとの関係では、ただ一つのことが勧められている。それは、立ち向かう(抵抗する)ことである(ヤコブ4:7、1ペテ5:8~9、エペ6:10~18)。そして、その方法は、神が信者に与えておられる権威とはどのようなものか、聖書を通してわきまえて、その権威を行使することである。その権威とは、全部で33ある。神学的には、それらは『33の位置的真理』と呼ばれる。」とありました。

そこで、今月からは、「33の位置的真理」について学ぶことといたします。

位置的真理の内容は、信者の地位と権威

位置的真理とは、英語の「Positional Truth」を訳したものです。

位置的「Positional (ポジショナル)」とは、生まれながらの罪人であった私たちが、イエス・キリストを信じて信者となったその瞬間に、神によって新しいポジションに立たせていただいた、そのポジションを言います。

真理「Truth (トルース)」とは、それが虚構や見せかけのものではなく、真実であり、一時的なものや消え去ってしまうものではなく、確実である、という意味です。

新約聖書の中には、そのようなポジションが全部で33あります。そして、このポジションには権威が伴っていて、サタンや悪霊との霊的な戦いにおける防御において最も有効な手段が、その権威を行使することなのです。

したがって、ポジションという英語は、単なる「位置」とか「立場」ではなく、権威を伴う「地位」と理解する方が、日本語としては適切だと思います。

そこで、この学びの中では、「位置的真理」とは呼ばずに、信者に与えられている地位とそれに伴う権威という観点から、「地位の真理」と呼ぶことにします。

アウトライン

1. イントロダクション (総論 七つの項目)
2. 各論 33の事柄
3. 結論

(別表)

33の事柄：地位の真理

1. 神によって贖われた者である
2. 神と和解した者である
3. 神の怒りはなだめられており、神は私に怒ってはおられない
4. 神から赦しを受けている者である
5. 神から義と認められた者である
6. 神からの栄光を受ける者である
7. 闇の支配から解放された者である
8. 心に割礼を受けた者である
9. 神に受け入れられる者である
10. 聖霊の働きによる初なるの実である
11. 神の永遠の計画の中にある者である
12. 岩なるメシアを土台として立つ者である
13. アブラハム契約に近い者とされた【異邦人信者にとって】
14. 聖なるそして王なる祭司のメンバーとされた【とくにユダヤ人信者】
15. 神の国に移された者である
16. 選ばれた世代、聖なる国民、特別な民【ユダヤ人信者にとって】
17. 天の市民である
18. 神の家族である
19. 神から愛され、養子となった者である
20. 神の子たちである
21. 聖徒たちの仲間の一員である
22. 主にあって光である＝光の子たちである
23. 天的な交わりを持つ者である
24. 神の目から完全な者である
25. すべての霊的な祝福を所有している
26. 父なる神から子なる神への贈り物である
27. メシアの相続財産である
28. メシアとの共同相続人である
29. 律法から自由にされた者である【ユダヤ人信者にとって】
30. 古き人（罪の性質）はすでに裁かれており、新しく歩める者である
31. 父・子・聖霊に結び合わされている者である
32. 神にアクセスすることができる者である
33. 神からの特別なケアを受ける者である

イントロダクション 総論 七つの項目

1. キーワードは「キリストにあって」
 - (1) いろいろな表現がある。「キリストにあって」・「イエスにあって」・「イエス・キリストにあって」・「キリスト・イエスにあって」・「彼にあって」・「その方にあって」
 - (2) これらは、ある一つの真理を指している。それは、
 - ① 信者は、メシアなるお方の中にいる、という特別な地位を持っている
 - ② その地位を持っているために、ある事柄が真実になっている
 - ③ 「キリストにあって」という地位を示すときには、その次に、ある事柄が続く。エペソ 1:3 では、「天にあるすべての霊的祝福を持っている」と続く。
 - (3) そのような事柄は、新約聖書の中に全部で 33 ある。
2. 信者が持つ地位と実際の生活との関係
 - (1) 信者が持つ地位（メシアの中にあるという地位）と、それにつながる 33 の事柄は、神の目から信者を見たときの真実である。
 - (2) 信者の実際の生活を人間の中から見ると、そういう地位にあるようには見えない。
 - (3) 信者の人生における歩みを、信者の持つその地位にふさわしいものにしていくこと、これは聖霊の働き「聖化」である。
 - (4) サタンや悪霊との戦いにおいては、信者の実際の生活がどうあるかではなく、メシアの中にある地位とそれに伴う権威によって対抗する必要がある（Ⅱコリ 5:16～17、ピリ 3:3～8）
3. その地位につくための経路
 - (1) 信者がメシアの中に入る経路は、聖霊のバプテスマである（Ⅰコリ 12:13）
 - (2) 使徒 2 章、ペンテコステでの聖霊降臨以降、すべての信者は、救われたその瞬間に、聖霊のバプテスマを受けて、聖霊の中に浸される。それによって、信者すべての者が一つの御霊を飲む者とされ、一つのからだとなる（Ⅰコリ 12:13）。
 - (3) 一つのからだとは、
 - ① キリストのからだであり、信者は各器官である（Ⅰコリ 12:12、27）。
 - ② それは、目に見えない普遍的な教会である（エペソ 1:23）
 - ③ キリストは、そのからだである教会のかしら（頭）である（コロ 1:18）。
 - (4) よって、「キリストにある信者」とは、キリストのからだである教会に属する信者。
 - (5) 「このキリストにあって、あなたがたもともに建てられ、御霊によって神の御住まいとなるのです」（エペソ 2:20～21）。教会は、今の時代の神の神殿である。
 - (6) このような教会は、使徒 2 章のペンテコステで始まり、救われるべき異邦人の数が満ちたら、教会は完成して、携挙により地上から取り上げられ、天に移される。
 - (7) よって、教会と関係する聖霊のバプテスマは、使徒 2 章のペンテコステ（紀元 30 年の五旬節の祭りの日）に始まり、教会の携挙をもって終了する。
 - (8) キリストにある地位は、教会時代の信者の特権である。また、サタンや悪霊が拘束される千年王国とは異なり、サタンや悪霊が活動をしている教会時代において信仰生活を送らねばならない信者にとって必要な権威を伴う地位である。

4. その地位が与えられた源は、神の恵みである (エペソ 1:6、2:7)
5. その地位は、信者の権威の基盤である (エペソ 1:18~19)
6. その地位に伴う権威を行使することは、サタンに対する最良の防御である。エペソ 6:10~18、その冒頭の 10 節は、原語を直訳すると、
- 「強くあれ・主にあって、そして主の力の強さにあって」
- 主にあって=主にあるという地位に立って
- 主の力の強さにあって=主から与えられた地位に伴う権威を用いて
- これは、地位の真理を知り、33の事柄を理解して、その権威を行使することの命令。
7. 「キリストにあって」というキーワードと並んで、メシアと信者との関係を教える重要な表現がある。それは、「キリストと共に」である。これは、神の目からみたととき、信者はメシアと同一の者と見られていることを示す。「キリストと共に十字架につけられた」というときには、信者に対して、自分の内にある古い人（生まれながらの、罪の性質を持っている人）を十字架に付けて殺しなさい、と命じているのではない。信者はすでに「キリストにあって」、キリストと結び合わされているので、当然、神の目からは、信者もまた十字架に付けられた、ということである。このメシアとの同一化は、十字架からスタートして全部で 8 つの枝（展開）を持つ。そのすべてが、救いの結果である。神の恵みであって、人の働きではない。
- | | | |
|-------------------------------------|---|----|
| (1) キリストと共に十字架につけられた (ガラ 2:20) | } | 過去 |
| (2) キリストと共に死んだ (コロ 2:20) | | |
| (3) キリストと共に葬られた (ロマ 6:4) | | |
| (4) キリストと共に生かされた (エペソ 2:5) | | |
| (5) キリストと共に復活させられた (エペソ 2:6、コロ 3:1) | | |
| (6) キリストと共に苦しんでいる (ロマ 8:17) | | 現在 |
| (7) キリストと共に栄光を受けるであろう (ロマ 8:17) | } | 未来 |
| (8) キリストと共に共同相続人となるであろう (ロマ 8:17) | | |

各論 33の事柄： 第1 神によって贖われた者である

1. 贖いは、「キリストにあって」というキーワードとつながっている。
- (1) ローマ 3:23~24 すべての人は、罪を犯したので、神からの栄誉（直訳「神の栄光」）を受けることができず、ただ神の恵みにより、キリスト・イエスによる贖いのゆえに（直訳「キリスト・イエスにある贖いを通して」）、価無しに義と認められるのです。
- (2) I コリ 1:30 あなたがたは、神によってキリスト・イエスのうちにあるのです。キリストは、私たちにとって、神の知恵となり、また、義と聖めと、贖いとになりました。
- (3) エペソ 1:7 この方にあって私たちは、その血による贖い、罪の赦しを受けています。これは神の豊かな恵みによることです。

- (4) コロ 1:14 この御子のうちにあつて、私たちは、贖い、(すなわち) 罪の赦しを得ています。
2. 贖いの代価は、メシアの血であった。贖いとは、「～から買い取る」という意味である。霊的な領域における贖いの意味は、罪の奴隷となっていた人を、その奴隷市場から買い取る、ということ。何かを買うためには、必ず代価が必要である。その代価とは、メシアの血であった。
- (1) I コリ 6:19~20 あなたがたは、代価を払って買い取られたのです。
- (2) I ペテ 1:18~19 あなたがた (ユダヤ人) が父祖伝来のむなしき生き方から贖い出されたのは、銀や金のような朽ちる物にはよらず、傷もなく汚れもない小羊のようなキリストの、尊い血によったのです。
3. 新約聖書で「贖う」に関係するギリシヤ語の原語は、3つある。それぞれが少しずつ異なるニュアンスを持っている。
- (1) アゴラゾー 「代価を払って買い取る」という意味。I ペテ 2:1「自分たちを買い取ってくださった主」、黙 5:9「あなたは、ほふられて、その血により、あらゆる部族、国語、民族、国民の中から、神のために人々を贖い」
- (2) エクサゴラジオー 「市場から買い取る」という意味。商品が人であれば、奴隷市場。ガラ 3:13「キリストは、私たちのためにのろわれたものとなって、私たちを律法ののろいから贖い出してくださいました。」4:5「これは律法の下にある者を贖い出すため、私たちが子としての身分を受けるようになるためです。」
- (3) ルトロソ 「解放し、自由にするための身代金」という意味。マタイ 20:28「人の子が来たのが、仕えられるためではなく、かえって仕えるためであり、また、多くの人のための、贖いの代価として、自分のいのちを与えるためであるのと同じです。」(英語 a ransom 身代金) I テモ 2:6「キリストは、すべての人の贖いの代価として、ご自身をお与えになりました。」
- ルトロー 「(身代金を払って) 解放し、自由にする」 テト 2:14「キリストが私たちのためにご自身をささげられたのは、私たちをすべての不法から贖い出し、よいわざに熱心にご自分の民を、ご自分のためにきよめるためでした。」
4. ギリシヤ語の原語3つの意味を合わせると、贖いの全体像がはっきりする。
- (1) 贖われた人 (信者) は、メシアが代価を支払って買い取った人である。その代価は、メシアの血であった。
- (2) その人は、生まれながらの罪の奴隷であった。罪の奴隷市場にその人は拘束されていた。メシアはその人を買って、外に連れ出してくださいました。
- (3) メシアはその人を解放してくださいました。その人は今、自由である。その結果、メシアを主人として仕えることが可能である。
5. 地位と権威
- (1) 地位：もはや罪の奴隷ではなく、自由人である。
- (2) 権威：罪は私に何の力も持たない。サタンも私を責めたり、訴えたりする根拠を持たず、二度と私を罪の奴隷市場に連れ戻すことはできない。私は、メシアにあつて、自由である。